改訂日 : 2025/01/16

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : スマートフィニッシュA液

製品番号 (SDS NO) : 08874-K9028、08874-K9029

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 自動車塗装保護用

使用上の制限 : 推奨用途以外に使用しないこと。

供給者の会社名称、住所及び電話番号

販売元 : 株式会社バンザイ

住所 : 〒105-8580 東京都港区芝2-31-19

担当部署 : 営業企画開発部

電話番号 : 03-3769-6884

FAX : 03-3456-4691

緊急連絡先 : 03-3769-6884

製造元 : 株式会社BTO

住所 : 〒532-0023 大阪府大阪市淀川区十三東5-2-19

担当部署 : 商品企画部

電話番号 : 06-6302-5711

FAX : 06-6302-5712

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体:区分 3

健康に対する有害性

誤えん有害性:区分 1

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):区分 1

水生環境有害性 長期(慢性):区分 1

(注) 記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

注意喚起語:危険

危険有害性情報

H226 引火性液体及び蒸気

H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

H400 水生生物に非常に強い毒性

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

P273 環境への放出を避けること。

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P233 容器を密閉しておくこと。

P240 容器を接地しアースをとること。

P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置
P370 + P378 火災の場合:指定された消火剤を使用すること。
P391 漏出物を回収すること。
P303 + P361 + P353 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
P331 無理に吐かせないこと。
P301 + P310 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。
保管
P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405 施錠して保管すること。
廃棄
P501 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :
混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
ナフテン系炭化水素	非公開	50 - 55	-
n-ノナン	111-84-2	3.7	2-9
蒸留(石油)、水素化した軽質留分	64742-47-8	30 - 35	9-1689; 9-1700; 9-1702
ウンデカン	1120-21-4	1 - 5	2-10
ドデカン	112-40-3	5 - 10	2-10

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。
危険有害成分
安衛法「表示すべき有害物」該当成分
n-ノナン , 蒸留(石油)、水素化した軽質留分 ,
ウンデカン(令和7年4月1日施行) , ドデカン(令和7年4月1日施行)
安衛法「通知すべき有害物」該当成分
n-ノナン , 蒸留(石油)、水素化した軽質留分 ,
ウンデカン(令和7年4月1日施行) , ドデカン(令和7年4月1日施行)
化管法「第2種指定化学物質」該当成分
n-ノナン

4. 応急措置

応急措置の記述
吸入した場合
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚(又は髪)に付着した場合
直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。
眼に入った場合
水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合
口をすすぐこと。

無理に吐かせないこと。
直ちに医師に連絡すること。
急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状
徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。
応急措置をする者の保護
保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項
医師に対する特別な注意事項に関する情報なし。

5. 火災時の措置
消火剤
適切な消火剤
泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。
使ってはならない消火剤
棒状注水
消火を行う者への勧告
特有の消火方法
関係者以外は安全な場所に退去させる。
蒸気を吸入しないために風上に移動する。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
火災の際には適切な呼吸器を着用する。
消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
関係者以外は近づけない。
適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項
環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材
少量の場合:吸着剤(土、砂、ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
多量の場合:盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。
二次災害の防止策
漏出物を回収すること。
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)
床を漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。
火花を発生しない安全な用具を使用する。
漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い
技術的対策
(火災・爆発の防止)
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する措置を講ずること。

（注意事項）
皮膚に触れないようにする。
眼に入らないようにする。
安全取扱注意事項
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
接触回避
「10.安定性及び反応性」を参照
衛生対策
取扱い後はよく手を洗う。
保管
安全な保管条件
容器を密閉しておくこと。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。
安全な容器包装材料
製品の容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置
管理指標
管理濃度、濃度基準値データなし
許容濃度
(n-ノナン)
日本産衛学会(1989) 200ppm; 1050mg/m3
(n-ノナン)
ACGIH(2012) TWA: 200ppm (中枢神経系障害)
(蒸留(石油)、水素化した軽質留分)
ACGIH(2003) TWA: 200mg/m3(P) (皮膚及び上気道刺激; 中枢神経系障害)
[ACGIH] 特記事項
(蒸留(石油)、水素化した軽質留分)
皮膚吸収
ばく露防止
設備対策
手洗い/洗顔設備を設ける。
保護具
手の保護具
保護手袋を着用する。
眼の保護具
保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具
保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質
基本的な物理的及び化学的性質に関する情報
物理状態 : 液体
色 : 無色透明～白色半透明
臭い : 特異臭
臭いの閾値データなし
融点/凝固点データなし
沸点又は初留点データなし
沸点範囲データなし
可燃性(ガス、液体及び固体)データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点 : 40℃
自然発火点データなし
分解温度データなし
pHデータなし
動粘性率データなし
溶解度:
水に対する溶解度データなし
溶媒に対する溶解度データなし
n-オクタノール/水分配係数データなし
蒸気圧データなし
密度及び/又は相対密度 : 0.78
相対ガス密度(空気=1)データなし
粒子特性 : 適用外

10. 安定性及び反応性

反応性
反応性データなし
化学的安定性
通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性
危険有害反応可能性データなし
避けるべき条件
高温、直射日光、熱、炎、火花、静電気、スパークを避けること。
混触危険物質
酸化性物質、強酸化性物質、還元性物質、ハロゲン類
危険有害な分解生成物
燃焼の際は煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報
急性毒性
急性毒性(経口)
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
急性毒性(経皮)
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
急性毒性(吸入)
[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠]
区分4 に分類される成分
n-ノナン
(100/ATEmix) = (区分1に分類される成分の含有量合計/区分1のATE) + (区分2に分類される成分の含有量合計/区分2のATE) + (区分3に分類される成分の含有量合計/区分3のATE) + (区分4に分類される成分の含有量合計/区分4のATE)
(100/ATEmix) = (区分1に分類される成分の含有量合計/(0.05mg/L)) + (区分2に分類される成分の含有量合計/(0.5mg/L)) + (区分3に分類される成分の含有量合計/(3mg/L)) + (区分4に分類される成分の含有量合計/(11mg/L))
10.0 < 区分4 <= 20.0 の範囲を超えるため、区分に該当しない。
皮膚腐食性/刺激性
[成分情報を用い加成方式を適用した分類根拠]
皮膚区分2 に分類される成分
n-ノナン

(10 x 皮膚区分1) + 皮膚区分2 < 10% であるため、区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
[成分情報を用い加成方式を適用した分類根拠]
眼区分2B に分類される成分
n-ノナン
10 x (皮膚区分1+ 眼区分1) + 眼区分2 < 10% であるため、区分に該当しない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性
呼吸器感作性
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
皮膚感作性
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
生殖細胞変異原性
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
発がん性
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
[成分データ]
[ACGIH]
(蒸留(石油)、水素化した軽質留分)
A3(as total hydrocarbon vapor)(2003) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明
生殖毒性
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
[成分情報を用いた分類根拠]
区分2 に分類される成分
n-ノナン
区分3 (気道刺激性) に分類される成分
n-ノナン; ウンデカン
区分3 (麻酔作用) に分類される成分
n-ノナン
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)を有する成分を分類基準以上含有しないため、区分に該当しない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
[製品]
利用可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
誤えん有害性
[製品]
区分 1, 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
[成分情報を用いた分類根拠]
区分1 に分類される成分
n-ノナン; ウンデカン; ドデカン

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

区分 1, 水生生物に非常に強い毒性

区分 1, 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

[成分情報を用い加算法を適用した分類根拠 短期(急性)]

区分1 に分類される成分、および各々の毒性乗率M

ウンデカン(M=10); n-ノナン(M=1)

区分2 に分類される成分

蒸留(石油)、水素化した軽質留分

M x 区分1 >= 25% であるため、区分1に分類した。

[成分情報を用い加算法を適用した分類根拠 長期(慢性)]

区分1 に分類される成分、および各々の毒性乗率M

n-ノナン(M=1); ウンデカン(M=10)

区分2 に分類される成分

蒸留(石油)、水素化した軽質留分

M x 区分1 >= 25% であるため、区分1に分類した。

水溶解度

(n-ノナン)

0.00002 g/100 mL (25℃) (出典: ICSC, 2011)

(蒸留(石油)、水素化した軽質留分)

0.15 g/100 mL (20℃) (出典: ICSC, 2013)

残留性・分解性

[成分データ]

(n-ノナン)

急速分解性あり (分解度: 96% (by BOD)) (出典: NITE)

生体蓄積性

[成分データ]

(n-ノナン)

log Pow: 5.65 (出典: ICSC, 2011)

(ウンデカン)

log Pow: 6.5 (出典: NITE)

土壌中の移動性

データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

焼却に際しては引火性物質を含むので注意して行うこと。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 : 1993
正式輸送名 :
その他の引火性液体、N.O.S.
分類または区分 : 3
容器等級 : III
指針番号: 128
特別規定番号 : 223; 274

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 1993
正式輸送名 :
その他の引火性液体、N.O.S.
分類または区分 : 3
容器等級 : III
特別規定番号 : 223; 274; 955

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 1993
正式輸送名 :
その他の引火性液体、N.O.S.
分類または区分 : 3
危険性ラベル : Flamm.liquid
容器等級 : III
特別規定番号 : A3

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当) : 該当

特別の安全対策

特別の安全対策データなし

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない
有機則に該当しない
名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
名称表示危険/有害物

n-ノナン(別表第9の432); 蒸留(石油)、水素化した軽質留分(別表第9の551); ウンデカン(令和7年4月1日施行); ドデカン(令和7年4月1日施行)

名称通知危険/有害物

n-ノナン(別表第9の432); 蒸留(石油)、水素化した軽質留分(別表第9の551); ウンデカン(令和7年4月1日施行); ドデカン(令和7年4月1日施行)

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第9条の3関係)

危険物・引火性の物 (30℃ <= 引火点 < 65℃)

化学物質管理促進(PRTR)法

第2種指定化学物質

ノナン(3.7%)

消防法

危険物

第4類 引火性液体第2石油類 危険等級 III(指定数量 1,000L)

化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)
IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年)
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2023 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)
Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ(独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP)(令和5年度 (2023年度) 公表分まで))です。

改訂日： 2023/12/27

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：スマートフィニッシュ B液

製品番号（SDS NO）: 08874-K9028、08874-K9029

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：自動車塗装保護用

使用上の制限：推奨用途以外に使用しないこと。

供給者の会社名称、住所及び電話番号

販売元：株式会社バンザイ

住所：〒105-8580 東京都港区芝2-31-19

担当部署：営業企画開発部

電話番号：03-3769-6884

FAX：03-3456-4691

製造元：株式会社BTO

住所：〒532-0023 大阪府大阪市淀川区十三東5-2-19

担当部署：商品企画部

電話番号：06-6302-5711

FAX：06-6302-5712

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体：区分 3

水反応可燃性化学品：区分 3

健康に対する有害性

急性毒性（経口）：区分 4

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 3（気道刺激性）

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 3（麻酔作用）

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)：区分 2

水生環境有害性 長期(慢性)：区分 3

（注）記載なきGHS分類区分：区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

注意喚起語：危険

危険有害性情報

H226 引火性液体及び蒸気

H261 水に触れると可燃性ガスを発生

H302 飲み込むと有害

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H336 眠気又はめまいのおそれ

H401 水生生物に毒性

H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

P273 環境への放出を避けること。
P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P231 + P232 湿気を遮断し、不活性ガス/適切な液体又はガス下で取り扱い保管すること。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースをとること。
P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P264 取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

P370 + P378 火災の場合:指定された消火剤を使用すること。
P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
P304 + P340 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P303 + P361 + P353 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
P330 口をすすぐこと。
P301 + P312 飲み込んだ場合:気分が悪いときは医師に連絡すること。

貯蔵

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405 施錠して保管すること。
P402 + P404 乾燥した場所で密閉容器に保管すること。

廃棄

P501 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :

混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
有機溶剤	非開示	55 - 60	-
有機ポリシラザン	非開示	35 - 40	非開示

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

毒物及び劇物取締法, 安衛法「表示、通知すべき有害物」, 化管法に該当する危険有害成分なし

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
多量の水と石鹸で優しく洗う。
皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合
口をすすぐこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状
徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。

応急措置をする者の保護
保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項
医師に対する特別な注意事項に関する情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤
粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

使ってはならない消火剤
水
棒状注水

特有の危険有害性
燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。
水と接触すると火災や爆発の危険性がある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法
関係者以外は安全な場所に退去させる。
蒸気を吸入しないために風上に移動する。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
火災の際には適切な呼吸器を着用する。
消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
関係者以外は近づけない。
適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項
漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。
環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
少量の場合:吸着剤（土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
多量の場合:盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。
水と触れさせてはならない。乾燥砂などを用い、又は真空で吸い取るなどして、できるだけ完全に空容器に回収する。

二次災害の防止策
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
全ての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）
床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。
漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い
技術的対策
（取扱者のばく露防止）
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
指定された場所以外では喫煙してはならない。
（火災・爆発の防止）
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する措置を講ずること。
（局所排気、全体換気）
排気/換気設備を設ける。
（注意事項）
皮膚に触れないようにする。
眼に入らないようにする。
安全取扱注意事項
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
湿気を遮断し、不活性ガス/適切な液体又はガス下で取り扱い保管すること。
取扱い後は手、汚染個所をよく洗う。
取扱中は飲食、喫煙してはならない。
接触回避
「10.安定性及び反応性」を参照
衛生対策
取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗う。
保管
安全な保管条件
換気の良い場所で保管すること。
涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。
乾燥した場所で密閉容器に保管すること。
安全な容器包装材料
製品の容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置
管理指標
管理濃度、濃度基準値データなし
許容濃度
日本産衛学会の許容濃度データなし
ACGIH 許容濃度データなし
ばく露防止
設備対策
手洗い/洗顔設備を設ける。
蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
保護具
呼吸用保護具

必要に応じて適切な呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具
保護手袋を着用する。
眼の保護具
保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具
保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質
基本的な物理的及び化学的性質に関する情報
物理状態 : 液体
色 : 無色～淡黄色透明
臭い : 僅かにアンモニア臭
臭いの閾値データなし
融点/凝固点データなし
沸点又は初留点データなし
沸点範囲データなし
可燃性(ガス、液体及び固体)データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし
引火点 : 25.1℃
自然発火点データなし
分解温度データなし
pHデータなし
動粘性率データなし
溶解度:
水に対する溶解度データなし
溶媒に対する溶解度データなし
n-オクタノール/水分配係数データなし
蒸気圧データなし
密度及び/又は相対密度 : 0.85
相対ガス密度(空気=1)データなし
粒子特性 : 適用外

10. 安定性及び反応性
反応性
反応性データなし
化学的安定性
通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性
危険有害反応可能性データなし
避けるべき条件
加熱、スパーク、裸火、及びその他の発火源は避ける。
水及びアルコールとの接触を避けること。
混触危険物質
水、アルコール
強酸化剤との接触を避けること。また強酸性および強塩基物質との接触は加水分解を起こすおそれがある。
危険有害な分解生成物
熱分解により二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物を発生させる恐れがある。
水の存在により徐々に加水分解され、水素及びアンモニアガスを発生させる。

11. 有害性情報
毒性学的影響に関する情報
急性毒性
急性毒性(経口)
[製品]
区分 4, 飲み込むと有害
急性毒性(経皮)
[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠]
急性毒性(経皮) の区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
急性毒性(吸入)
[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠]
急性毒性(吸入) の区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
皮膚腐食性/刺激性
[成分情報を用い加成方式を適用した分類根拠]
皮膚区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
[成分情報を用い加成方式を適用した分類根拠]
皮膚区分1の成分、眼区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性
呼吸器感作性
[成分情報を用いた分類根拠]
呼吸器感作性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
皮膚感作性
[成分情報を用いた分類根拠]
皮膚感作性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
生殖細胞変異原性
[成分情報を用いた分類根拠]
生殖細胞変異原性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
発がん性
[成分情報を用いた分類根拠]
発がん性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
生殖毒性
[生殖毒性:成分データを用いた分類根拠]
生殖毒性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
[授乳に対する又は授乳を介した影響(追加区分): 成分データを用いた分類根拠]
授乳影響を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
[製品]
区分 3, 呼吸器への刺激のおそれ
区分 3, 眠気又はめまいのおそれ
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
[成分情報を用いた分類根拠]
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
誤えん有害性
[成分情報を用いた分類根拠]
誤えん有害性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

区分 2, 水生生物に毒性

区分 3, 長期継続的影響によって水生生物に有害

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

焼却に際しては引火性物質を含むので注意して行うこと。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 : 3129

正式輸送名 :

その他の水反応性液体、腐食性、N.O.S.

分類または区分 : 4.3

副次危険 : 8

容器等級 : II

指針番号: 138

特別規定番号 : 274

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 3129

正式輸送名 :

その他の水反応性液体、腐食性、N.O.S.

分類または区分 : 4.3

副次危険 : 8

容器等級 : II

特別規定番号 : 274

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 3129

正式輸送名 :

その他の水反応性液体、腐食性、N.O.S.

分類または区分 : 4.3

副次危険 : 8

危険性ラベル : Dang. when wet & Corrosive

容器等級 : II

特別規定番号 : A3; A803

環境有害性
海洋汚染物質（該当/非該当）: 非該当
特別の安全対策
特別の安全対策データなし
国内規制がある場合の規制情報
船舶安全法
可燃性物質類 水反応可燃性物質 分類4 区分4.3
航空法
可燃性物質類 水反応可燃性物質 分類4 区分4.3

15. 適用法令
当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法
毒物及び劇物取締法に該当しない。
労働安全衛生法
特化則に該当しない
有機則に該当しない
別表第1 危険物（第1条、第6条、第9条の3関係）
危険物・引火性の物（0℃ <= 引火点 < 30℃）
化学物質管理促進(PRTR)法
化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。
消防法
危険物
第4類 引火性液体第2石油類非水溶性液体 危険等級 III（指定数量 1,000L）
化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。
適用法規情報
海洋汚染防止法：X/ Y

16. その他の情報
参照文献及び情報源
Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)
IATA 航空危険物規則書 第64版（2023年）
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2023 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2022 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)
Supplier's data/information
責任の限定について
本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ（NITE 令和4年度(2022年度)）です。